

はじめに

社会資本整備審議会中間答申「今、転換のとき」より

成熟社会へ転換

- ・ 一定の量的道路ストックの形成
- ・ 成熟型社会への移行 等

依然として残る課題

- ・ 慢性的な交通渋滞
- ・ 過去最悪の交通事故件数
- ・ 厳しい沿道環境 等

反省と課題

- ・ 国民の期待とのギャップ
- ・ 批判や不信任
- ・ 「使う」視点の軽視 等

改革の基本的方向

- ・ ユーザー指向
- ・ 成果(アウトカム)重視 等

本提言は、ユーザー指向で成果重視の新たな道路行政を実践に移すにあたり行政マネジメントの観点から提言するもの

第1章 提言の背景

成果重視の行政運営への潮流

- ・ 米英の取り組み
- ・ 行政評価法の施行
- ・ 経済財政諮問会議における議論
- ・ 国交省政策評価年次報告書 等

道路のおかれている状況

- ・ 生活に密着し、国民一人ひとりが利用者
- ・ 事業採択の不透明感
- ・ 事業の効率性に対する不信任 等

道路行政の努力

- ・ 個別事業評価制度 (H9~)
- ・ 構想段階PI (H14~)
- ・ 指標を用いた目標設定 (H10~)
- ・ 交通量・旅行速度データ収集 等

平成15年度より、成果志向の行政マネジメントのしくみを実践に移し、率先して成果主義へ転換するべき

第2章 成果主義の道路行政マネジメントに向けた3つの柱

成果主義の道路行政マネジメントへの転換

理論から実践へ

毎年度のマネジメントサイクルの確立

毎年度、上位計画に基づく計画を策定し、事前に定量的な成果目標を定め、事後的に達成度の評価を行い、評価結果を以降の行政運営に反映する、「マネジメントサイクル」を確立。

わかりやすさと実現性の両立

道路ユーザーの視点からみたらわかりやすい成果目標を掲げると同時に、行政運営に不可欠な目標も設定し、実際の行政運営において予算・人事のしくみへの反映を可能に。

国民と行政とのパートナーシップの確立

事前の目標設定、事後の評価の結果に加え、背景のデータも積極的に公開し、透明性を高めるとともに、国民の参画も図り、国民と道路行政のパートナーシップを確立。

第3章 実践のための5つの戦略

目標と指標の設定

- ・ 道路行政の使命、政策目標、指標を体系的に設定
- ・ 各年度の数値目標及び手段に至るプロセスを明確化
- ・ 実効ある運営のため、階層的な指標群を体系的に設定

効率的なデータ収集

- ・ 必要なデータを毎年度収集する体制を整備
- ・ 交通量・旅行速度等基礎的なデータは原則毎月収集し、公表
- ・ データ及びその分析結果を公表

毎年度の業績計画の策定及び達成度の把握

- ・ 毎年度の数値目標と手段に至るプロセスを示す業績計画の策定
- ・ 毎年度の達成度の把握、評価
- ・ 結果を、以降の施策に反映
- ・ 都道府県等地域レベルにも業績計画を策定し、達成度を把握

予算・人事のしくみへの反映

- ・ 成果の目標値に見合った予算設定を実施
- ・ 目標、評価結果を予算設定の重要な判断材料として活用
- ・ 成果買い取り型予算運用の導入
- ・ 組織、人事等業務運営面の改革
- ・ 競争原理の活用(いわゆるベンチマーキング方式)

アウトパブリック・評価の正統性の確保

- ・ 自己評価(セルフアセスメント)及び、評価担当部局による二次評価
- ・ 毎年度「業績計画書」「達成報告書」を公表
- ・ 国民と行政が課題・目標を共有し、協働して解決を図る新たなパートナーシップを確立。

第4章 実行にあたっての留意点

国民とのコミュニケーションの手法

地域性への配慮

地方公共団体との関係

行政マネジメントシステムの進化

職員一人ひとりへの浸透